

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 882 号	氏名	Zhassulan Baimakhanov
学位審査委員	主査 高村 昇 副査 永安 武 副査 李 桃生		
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、肝細胞シート移植による生体内での肝機能補助効果を明らかにするために、致死的モデルである放射線性肝障害に肝切除を加えたラットに多層化肝細胞シートを移植して評価を行ったもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価 ドナーラットの線維芽細胞、肝細胞から多層化肝細胞シートを作成し、<i>in vitro</i> で単層肝細胞単独シート群とアルブミン合成能を比較し、<i>in vivo</i> ではレシピエントラットに多層化肝細胞シートを移植して、対照群と血清アルブミン値、採取組織の病理組織、生存率を経時的に比較検討したもので、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、<i>in vitro</i> で多層化肝細胞シート群では単層肝細胞単独シート群に比較してアルブミン値が有意に高かった。また <i>in vivo</i> でも移植群では対照群と比較して、血清アルブミン値が有意に高値であり、生存率も有意に改善していた。このことは細胞シート技術の応用が肝代謝性疾患や肝不全に対する効果的な治療戦略になりうる可能性を示すもので、今後の研究進展が期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は肝疾患治療分野に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			